

私にとっての森田療法

高木垣太郎（高木神経科虎の門クリニック）

増野先生をはじめ高良先生のご薫陶をいただいた多くの愛弟子の方々の多大なご協力によって、森田・高良両先生の御業績と森田療法についての資料が整備され、供覧できる機会が与えられてきていることに私も深く感謝しています。私のような街中での診療にたずさわっている臨床精神科医にとっては、森田療法は右手に持った金剛杖であり、左腕に抱えた精神薬物療法とともに大きな力となっています。

私が入局した際、高良教授は精神科教室の主任教授であり、高良興生院は大学の医局と共に森田療法の修験場でした。「事実唯真」「あるがまま」「ヒポコンドリー」といった考え方や言葉は常にとびかっっていました。しかし乍ら、恩師高良先生が今生きておられたら、多分、お叱りを受けると思いますが、私には森田療法は残念乍ら平時の精神療法であり、現代の不景気、リストラ、或いは幼児虐待等々、枚挙にいとまがない忌まわしい事象と激しい時の流れの中にあつては適応性を失いつつある精神療法であるように思われてなりません。私の力不足のためとは思いますが、精神科の患者さんをはじめ、生活習慣病の方、或いは深刻な問題を抱えた高齢者や介護者の方々など、かつての「駆け込み寺」に飛び込んできた人たちも斯くやと思われる方々の悩みに応え救ってゆくためにはなんとか従来の森田療法に新しいスピードを吹き込み、より迅速果敢に成果をあげられる改革を与えなくてはならないと痛感するのです。先日私は銀座のある店で右手を耳にかざして天下の音を聴くことを修業の手段として羅漢の称号を授けられる迄に達したという「小耳羅漢」の木像を求めました。患者さんの訴えることを耳をそばだてて聴き、より適切な考え方を「森田」の中から錘ぎだして、一人でも多くの患っている方々のためになりたい。それが高良先生から賜った森田療法の生かし方であり、街の臨床精神科医に残された生きがいだと思っています。

冬の座談会の報告

「引きこもりと森田療法」コスモスの会の座談会と北西憲二先生の解説で、12月6日開催されました。24の方が参加され、熱心に話し合いを行ないました。

引きこもりの問題に悩む家族からも質問があり、この問題への関心の深さが感じられました。ビデオ上映会の方は、今回が3回目でもあり、参加者が少なく残念でした。

高良武久先生を偲ぶ特別企画

森田正馬先生と高良武久先生

—森田療法の誕生と展開をめぐって—

2004年5月8日(土) 14:00~16:00

於：就労センター「街」(興生院跡にある) 3F

森田先生の言葉から見た森田療法 菊地真理さん(生活の発見会)
高良先生の森田療法 阿部 亨先生(森田療法クリニック)
高良先生から見た森田先生 藤田千尋先生(常盤台神経科)
森田先生と高良武久先生 近藤喬一先生(慈友クリニック)
司会 増野 肇先生(ルーテル学院大学)

森田療法を創始された森田正馬先生とその後を継いで、現在の森田療法を築き上げた高良武久先生について、それぞれの森田療法がどのようなものであったのかを、現在、森田療法を引き継いでおられる方々に語っていただきます。

その他の企画

* 高良先生のビデオ上映と森田療法による相談

5月7日(金) 14:00~14:30 ビデオ「人間関係について」相談/増野 肇先生

18:00~20:00 ビデオ「プラスとマイナス—毫の差」

相談/北西憲二先生

高良武久先生が生前に最後に録画された、「生活の発見会」の新春懇話会のために、録画されたビデオです。なつかしい高良先生のお話を聞いて、先生のわかりやすい講話の楽しさを思い出して頂ければ嬉しいです。

ビデオのあとには、森田療法に関する相談や質問に治療者がお答えいたします。

上記特別企画参加費：2000円(ビデオと相談にも参加できます) ビデオと相談のみの場合は1000円

お知らせ

1. 昨年の座談会「森田療法において興生院が果たした役割」は、たいへん好評でしたが、岡本財団の援助により、小冊子として発行することになりました。参加出来なかった方にも、その時の熱気を感じ取っていただけたと思います。改めて、岡本メンタルヘルス財団にはお礼を申し上げます。
2. 設立時に御寄付をいただいた基金が、残っていることがわかりました。これは、図書の整備にあてることになりました。森田療法研究に欠かせない図書がありましたら、お申し出でください。委員会で検討します。